

中学校第3学年社会科(公民的分野)学習指導案

日時 平成25年11月22日(金)

指導者 教諭 高田 幸伸

1 単元名 第4章 わたしたちの暮らしと経済

「(1)身のまわりから「経済」を探る」(教育出版)

2 単元について

(1) ねらいについて

この章では、「家計」、「企業」そして「国や地方公共団体」の経済活動といった「経済の三つの主体」について学ぶ。

まず、わたしたちに身近な「消費」行動について取り上げ、その経済主体は、わたしたち自身の生活のための「家計」であることを学ぶ。次に、市場経済のしくみを「価格」を通じて学ぶ。市場における「価格」の決まり方や「価格」を通じて、わたしたちがよりよい選択をするためには、限られた資源をどのように使うのかといった考え方を学んでいく。

また、「生産」の役割を担っている様々な企業を取り上げ、「株式会社」のしくみを学んでいく。また「企業」の資金調達の面から「直接金融」のあり方や「銀行」を中心とした金融機関の役割も学ぶ。そして、社会における企業の役割と責任を考えさせる。

さらに、政府の経済活動について、財政の確保と分配という観点から、財政の役割と税金の意義についてとらえさせていく。

本単元をこの時期に取り上げることは、義務教育終了を控え、将来経済活動を担い、国民としての役割を果たしていく準備につながると考える。

また、「消費活動」や「消費者」については、第2学年の技術・家庭科において12月に学習している。

(2) 生徒の実態について

※ 省略

(3) 指導にあたって

- 導入では、写真や資料を電子黒板に提示し、生徒に見やすいようにする。
- 話し合いの活動は、ペア(もしくは班)活動で行う。
- 生徒たちの発表については、意見や考えを学級全体で共有するために、書画カメラを使って、電子黒板に提示する。
- 発表の際は、相手意識を持って発表すること(声の大きさ、資料、電子黒板や書画カメラの使い方など)と、考えの理由もあわせて発表することを徹底するように確認していく。

ICT活用のポイント

①教師の活用

- ・導入の課題提示において、教師用デジタル教科書の挿絵を一部提示し、本時の課題に対して興味を持つようにする。

②生徒の活用

- ・生徒が課題についてまとめた内容を発表する際に、書画カメラを使ってわかりやすく発表し、意見や考えを共有させる。

3 単元の目標

- (1) 身のまわりにある様々なお金の行方や使い方についての関心を高め、個人の経済活動について考えることができる。(興味・関心・意欲)
- (2) 経済の三主体(家計、企業、政府)がどのようにして結びつき、身のまわりのくらしとどのように関わっているのかを考察し、その過程や結果について表現することができる。(思考・判断・表現)
- (3) 家計の収入と支出に関する様々な資料を収集して情報を選択し、人やもの、お金の動きを図表などにまとめることができる。(技能)
- (4) 経済の三主体がお互いに結びつき、人、もの、お金を動かしていることを理解することができる。(知識・理解)

4 単元の評価規準

社会的現象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・表現	資料活用の 技能・表現	社会的事象について の知識・理解
今日の経済活動に関する諸問題に着目し、個人や企業の経済活動について考えようとしている。	個人や企業の経済活動の在り方について消費者、生産者、労働者など様々な立場から公正に判断している。	個人や企業の経済活動について追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	家計の貯蓄などを企業の生産活動や生活の資金として円滑に循環させるため、金融機関が仲立ちしていることを理解し、その知識を身につけている。

5 指導計画及び評価基準(6時間取扱い)

時	学習活動	指導上の留意事項	関	思	技	知	評価基準・評価方法
1 本 時	経済を動かす三つの主体をとらえながら自分たちのくらしとのつながりに関する	<ul style="list-style-type: none"> ・お金の動きに興味を持たせるために、お金に関わるクイズを出題する。 ・お金、人、ものの動きと結びつきをわかりやすくするために、2 	○				B：身のまわりにある様々なお金の行方や使い方について図表にまとめることができる。 A：身のまわりにある様々なお金の行方や使い方について図表に項目

	て知る。	種類の図を用意し、図化を促す。				のほとんどをまとめることができる。
1	家計の果たす役割を財やサービスの供給と消費や貯蓄との関わりから考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・家計に興味を持たせるために、いくつかの求人票をもとにして、一ヶ月の収入を割り出す。 ・消費と所得との関係を家計のはたらきを通して考えていくために、経済の三主体の図を活用する。 	○			<p>B：家計が果たす役割について、経済の三主体の図に記入しようとしている。</p> <p>A：家計が果たす役割について、経済の三主体の図を使って説明しようとしている。</p>
1	消費者の安全と様々な権利を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者の権利と責任を考えさせるために、クーリング・オフの書類を実際に作成する。 			○	<p>B：消費者の安全や権利を守るための法律を調べ、シートに記入している。</p> <p>A：消費者の安全や権利を守るための法律と責任について調べ、シートに記入している。</p>
1	流通のしくみと自分たちの暮らしとの関わりについて気づく。	<ul style="list-style-type: none"> ・流通に関心を高めるためにPOSシステムを紹介する際、コンビニエンスストアのレジの画像を提示する。 ・流通の経路やはたらき、役割をわかりやすくするために電子黒板を活用し、流通の図を提示する。 		○		<p>B：オンラインショッピングの長所と短所をシートに記入している。</p> <p>A：オンラインショッピングの状況や流通経路の変化などにふれながら、長所と短所をシートに記入している。</p>
1	市場での価格の決まり方について身近な生活のなかから具体的に考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・市場の価格について関心を高めるために、デジタル教科書の「廃棄処分されるキャベツ」の写真と「月別入荷量」のグラフを提示し廃棄された理由を考えさせる。 		○		<p>B：市場価格から均衡価格へと導く市場のはたらきをシートに記入している。</p> <p>A：市場価格から均衡価格へと導く市場のはたらきをシートに記入し、その過程を説明している。</p>

1	主な価格の種類をふまえ、市場が機能するための条件について考える。	<ul style="list-style-type: none"> 生産の集中と価格の設定について、消費者側、企業側から考えさせ、それぞれの利点と欠点について考えをまとめさせる。 	○	B：身のまわりにある商品のうち、生産や販売サービスが集中している商品について情報を収集し、2つシートに記入している。
		<ul style="list-style-type: none"> 市場メカニズムにゆだねることが必ずしも望ましくない価格があることを新聞記事を通して考えさせる。 		A：身のまわりにある商品のうち、生産や販売サービスが集中している商品について情報を収集し、3つ以上シートに記入している。

6 本時の展開

(1) 目標 身のまわりにある「お金」の動きを考えるを通して、自分たちの暮らしと経済活動のつながりへの関心を高める。

(2) 展開

過程	学習活動、主な発問 (T) 予想される児童の反応 (C)	指導上の留意点・評価	備考 ICT活用
導入 5分	<p>1 「お金」に対する写真や資料を提示し、学習への興味や関心を高める。</p> <p>(T)世の中に出回っている1万円札を積み上げると、どのくらいの高さになるでしょうか。</p> <p>(C)想像がつかない。わからない</p>	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書の資料を提示し、お金についての関心を高める。 世の中に大量のお金が出回っていることをイメージさせる。 	電子黒板 デジタル教科書
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>お金が、世の中でどんな動きをしているのかを図にまとめよう。</p> </div>			
展開 35分	<p>2 世の中に出回っているお金の種類について考える。</p> <p>(T)世の中に出回っているお金には、どんなものがあるだろう。「〇〇金」という形で上げてみよう。</p> <p>(C)代金、賃金、料金、入学金、税金年金、借金、貯金、募金、現金など</p>	<ul style="list-style-type: none"> まずは、個人で考えさせる。 考える視点として、ここでいう〇〇金とは、世の中で何らかの役割を果たしながら出回っているお金であることを指し示す。(該当しない例をいくつか上げる)現金、大金、サラ金…お金の量や質、会社名などは視点がずれていることを抑える。 班で考えた〇〇金を出させる。そのなかから、10個程度に絞る。 	シート付箋 ミニホワイトボード

	<p>3 世の中の様々なお金が、どのような動きをしているのかについて考える。</p> <p>(T)みなさんが出してくれた〇〇金は、世の中でどんな動きをしているのでしょうか。</p> <p>(C)むずかしい。どこからどこへ回っているのかな。</p> <p>4 まとめた意見を発表する。</p> <p>【言語活動】（設定の意図） 世の中に出回るお金が、（私・家族）家計、政府、企業の三主体を中心に様々な役割を果たしながら、わたしたちの身近な暮らしとも関わっていることに気づかせる。</p>	<p>能動型学習（ポイント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班活動で〇〇金の動きについて図にまとめる。 ・どこ（だれ）から、どこ（だれ）へお金が移動しているかを考えることを視点として提示する。（お金の動きを→で示す。） ・経済の三主体（家計・企業・政府）を図に入れることを確認する。 ・経済の三主体でない機関・施設が必要な場合には、別に付箋で示していくことを示しておく。 <p>◆興味・関心（シート）</p> <p>B基準身のまわりにある様々なお金の行方や使い方について図表にまとめている。</p> <p>A基準身のまわりにある様々なお金の行方や使い方について図表に項目のほとんどをまとめることができる。</p> <p>〈B基準に達していない生徒への手立て〉</p> <p>○班活動で、班員の生徒とともに考えることで、意欲を持たせたい。また、生活していくのにどんなものがよいかなど具体的な項目を提示していきたい。</p> <p>徹底指導（ポイント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の際は、相手意識を持って発表すること（声の大きさ、資料、電子黒板や書画カメラの使い方など）と、考えの理由もあわせて発表することを徹底するように確認していく。 ・「私・家族」は家計であり、政府、企業を「経済の三主体」ということを、抑える。 	<p>シート 付箋 書画カメラ 電子黒板 経済の三主体のカード マーカー</p> <p>シート 書画カメラ 電子黒板</p>
<p>終末10分</p>	<p>4 世の中に出回っているお金が、経済の三主体を通して、身近な暮らしと関わっていることを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめとして感想を記入させ、発表させる。 	<p>シート</p>